

平成28年度使用 教科用図書の採択について

群馬大学教育学部附属小学校

平成28年度使用教科用図書の採択結果とその理由は、以下のとおりです。

教科 (採択教科書)	採択の理由(内容、資料、表記・表現等)
国語 (光村図書)	単元の始めに、身に付けさせたい力や言語活動、学習の流れ等を示すなど、子どもたちが見通しをもち、主体的に課題解決できるようにするための工夫がされている。また、伝統的な言語文化に関する単元として、音読・暗唱単元「声に出して楽しもう」や、読み聞かせ単元「聞いて楽しもう」が設定され、子どもたちが伝統的な言語文化に親しめるようになっている。
書写 (光村図書)	毛筆で学習したことを生かして、硬筆で文字を書き込む欄が充実しており、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れるよう工夫されている。また、単元ごとに書く時のポイントが色囲みで示されたり、字形の違い等を比較できる図版が用意されていたりするなど、大切な点を視覚的に捉え、見通しをもって学習に取り組めるようにするための工夫がされている。
社会 (東京書籍)	中心資料となる絵図や写真が比較的大きく掲載されていることに加え、全ての単元で「つかむ」「調べる」「まとめる」の学習過程が示されており、予想の仕方や学習計画の立て方も示されている。ページの始めには学習内容に関する問いがあり、終わりには次の学習につながる疑問が示されているため、つながりを意識して学習を進められる配慮がある。
地図 (帝国書院)	縮尺400万分の1の日本全図や100万分の1の地方図など、日本や地方を広範囲から捉えられるようになっている。地方図のページには、各地方の特産物や文化財などが記載されているだけでなく、特色ある地形や産業をクローズアップして取り上げるなどの配慮がある。「地図のなりたちとやくそくごと」「地図帳の使い方」が充実しており、活用の仕方を身に付けられる等の配慮がある。
算数 (大日本図書)	「算数の学び方」として、算数の問題解決の過程が示されていたり、それに対応したノートの書き方の例がわかりやすく掲載されていたりする。また、目次では既習単元とのつながりが示されていたり、各学年ごとに上下巻ではなく、1冊に合本化されていたりして、学習の見通しをもったり振り返ったりしやすいよう配慮されている。さらに、基礎的な問題や発展的な問題なども充実している。
理科 (大日本図書)	理科における問題解決の力を身に付けるための配慮として、問題解決の過程が明確に示されている。また、巻頭には「学習の順序」というページを設け、問題解決の過程に応じた学習の進め方を示すと共に、各学年で育む問題解決の力を示している。加えて、観察、実験等の体験的な学習が展開できるための配慮として、観察、実験の内容を体験している様子を写真やイラストで示している。
生活 (日本文教出版)	単元の構成が問題解決的なものとなるように、学習過程ごとに「出会う」「関わる」「振り返る」と構成する工夫が見られる。また、本時の学習の見通しがもてるように、見開きページに課題から具体的な活動がイラストや写真で示され、授業が「見える」構成となっている。さらに、学習プリント例が示されており、獲得させたい気付きが分かり、気付きの質を高めるために効果的である。
音楽 (教育芸術社)	昨今、音楽の教育現場で重要視されている音楽づくりについての内容が多く取り入れられている。各学年の発達段階に応じて、系統的・発展的に創造的な音楽づくりに取り組めるよう題材が工夫されている。また、各題材のねらいに迫る学習活動の進め方やヒントについて、絵や文、記号等を用いてわかりやすく例示されており、児童が進んで学習の課題を見付けられるようになっている。
図工 (日本文教出版)	表現技法について、製作方法の解説や工夫が詳しく説明されている。材料や用具の扱いについて、基本的な材料の扱い方や用具の安全な使い方が図解で説明されている。安全面における注意事項や片付けの方法について、題材ごとに平易な言葉で説明されている。また、学習のめあてが題材名の隣に記され、学習過程の様子が写真で順を追って詳しく掲載されているため、題材の流れが把握しやすい。
家庭 (開隆堂)	日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう、簡単なものから活動を繰り返し、積み上げて学習できる2年間を見通した題材構成となっている。また、調理や製作の手順が写真とイラストで具体的にわかりやすく例示されており、つまずきやすいところは拡大表示されている。安全や環境への配慮を促す具体的な内容、教科特有の言葉の意味や解説なども充実している。
体育 (東京書籍)	教科書の見出しに学習活動が明記されており、子どもたちが見通しをもって学習に取り組むことができる。また、学習して得られた知識を生かして、思考・判断・表現する活動が位置付き、知識の習得だけでなく、活用する力も身に付けることができる。さらに、子どもたちの生活に即した具体的な場面を想定し、身に付けた知識を実生活の中で発揮することができるものとなっている。

